

17. システム生命科学府

(1) システム生命科学府の教育目的と特徴	17-2
(2) 「教育の水準」の分析	17-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	17-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	17-12
【参考】データ分析集 指標一覧	17-14

(1) システム生命科学府の教育目的と特徴

1. 本学府は、「生命を包括的に理解し社会の多様な要請に応えうる生命科学者の育成」の理念に基づき、従来の生物学や医学の枠を越え、種々のテクノロジーやデータサイエンスなどを有効に活用しつつ生命を包括的に理解でき、新しい知を追求できる人材、および生命を正確に理解したうえで、健康、エネルギー、食糧問題など多岐にわたる社会問題を解決していける人材を育成することを目的としている。
2. 本学府は、システム生命科学専攻の一専攻からなり、生命科学に関連する広範な分野をカバーする5大講座で構成している。構成員も、その教育の必要性から、理学研究院、農学研究院、医学研究院、工学研究院、システム情報科学研究院、数理学研究院、基幹研究院の7研究院と、生体防御医学研究所、マス・フォアインダストリ研究所の2研究所、稲盛フロンティア研究センターの1センターから関連の教員が集結し、統合生命科学及び医工連携などの生命科学応用における学内ハブ拠点となっている。学生に関しても、広範な分野から適性がある多様な学生を集めるというアドミッション・ポリシーのもと、幅広い学部からの学生、企業や民間の研究機関、海外からの留学生などに対応する種々の入試を実施している。
3. 本学府では、5年一貫制の博士課程としており、厳格な能力判定基準の基、学位を授与している。また、編入学者に対して、入学前の履修状況を考慮した最適な修学指導を実施し、さらに特に優れた研究業績を上げた場合には、早期に学位を授与できる制度も設定されている。本学府で授与できる学位は、システム生命科学を基本とし、一定の単位習得規則を満たせば、理学、工学、情報科学の中からも選択することができる。また、2年次修了時に所定の単位を習得して、さらに修士論文を提出し、最終試験を受けて合格すれば修士の学位が授与される。留学生に対しては、英語で受講可能な国際コースを設置している。
4. 本学府では、システム生命科学という学際的な分野で活躍する能力を涵養するために、出身学部とは異なる分野の科目を履修するといった「たすき掛け教育」を始め、異分野の学問や研究内容を理解し、自らの専門に取り込んで融合させることのできる、研究企画能力、プレゼンテーション能力の養成を行っている。また、生命倫理学を必須基礎科目として、留学生、社会人を含む全学生へ履修を義務付けている。
5. 馬出地区ウェストウイング棟と伊都キャンパスにおけるシステム生命科学府スペースを用いたデュアルキャンパス性の教育を充実させるため、教育活動の高い連携機能が確保できる遠隔講義システムを充実させて、一層の教育内容の充実を図っている。

以上記述した教育目的と特徴は、本学の中期目標記載の基本的な教育目標である、「自ら学ぶ姿勢や態度、分野横断的な俯瞰力、課題発見・解決能力を育む学部・大学院（学府）教育を展開し、豊かな教養と人間性を備え、世界的視野を持って生涯にわたり高い水準で能動的に学び続ける指導的人材（アクティブ・ラーナー、骨太のリーダー）を育成する。」を踏まえている。また、ステークホルダーとして、在学生・受験生及びその家族、修了生、修了生の雇用者、地域社会、国際社会等を想定しており、関係者からは、生物学・医学・農学と工学・情報科学という複数の素養を併せ持つ人材で、それら異なる領域の素養を融合させて能力を発揮できるシステム生命科学の新たな領域を担う優れた研究者と高度専門職業人を育成することが期待されている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 7317-i1-1）
- ・ 公表された学位授与方針_2020年4月（別添資料 7317-i1-2）
添付理由：2019年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針の見直しを行ったため

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 7317-i2-1）
- ・ 公表された教育課程方針_2020年4月（別添資料 7317-i2-2）
添付理由：2019年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針の見直しを行ったため

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 7317-i3-1～2）
- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料「カリキュラムマップ 2020年4月（7317-i3-3）」）
添付理由：2019年度にカリキュラムマップの見直しを行ったため
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 7317-i3-4～5）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 7317-i3-6～7）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 本学府では、学際的なシステム生命科学の新たな領域を担う優れた研究者と高度専門職業人を育成するために、前期と後期を区分しない5年一貫制の博士課程としている。これまで大講座がカバーする教育分野に沿って各教員が必要とされる講義を提供していたが、2016年度に育成すべき能力に沿って必要な講義を根本から見直し、講義数を減らしつつ講義を体系化して各講義の能力養成に対する位置づけを明確にして、2017年度より実施している。（別添資料 7317-i3-8）

また、留学生に対しても、英語で受講可能なコースを設置し、講義科目数も充実を図っている。[3.1]

○ 本学府では、文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」（2013～2019年度）の採択により、「持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム」を実施してきた。この取り組みは、専門・学際科学の成果を統合し、課題解決への決断を下すための新たな学識を持ち、国際社会においてプロジェクトを提案し、明確なプレゼンテーションによって人々を説得し、さらに、課題解決に向けての協働作業を組織・推進する指導力を持った人材を養成するという社会ニーズを踏まえたプログラムである。（別添資料 7317-i3-9） [3.2]

○ 社会においては、市場の変化により、従来の学問分野に収まらない学際的な産業分野が生まれている。このような社会動向において、生命科学分野でも、従来とは異なり、多くの学問との境界領域に学際的分野が誕生しつつある。これらに即応するため、本学府では、まず、初年度教育において、生物系学部出身者に対しては、情報科学・工学系講義科目を情報科学・工学系学部出身者に対しては、生物系講義科目を準備された科目から選択して必ず4単位以上受講させるという「たすき掛け教育」のカリキュラム編成を充実させている。出身分野とは異なる分野の基礎知識を入学後最初に習得させ、その後、専門的知識の徹底を図っている。（別添資料 7317-i3-10） [3.3]

○ 本学府では、新規分野であるシステム生命科学に寄与できる人材育成のため、幅広い分野からの学生を受け入れている。そのため、生命科学分野以外から進学してきた学生にも、大きな障害なく各領域を習得し、専門性を深めることができるように、各科目に基礎及び学際専門の両レベルの講義を配置している。

（（再掲）別添資料 7317-i3-1～3）

また、[3.3]にも記したように、入学時の学習履歴に応じて、それとは異なる分野の講義を履修させることによって、必要な能力を完結できるような「たすき掛け教育」のシステムを採用している。また、5年一貫制教育に適合させるため国

九州大学システム生命科学府 教育活動の状況

内外からの3年次編入学者及び社会人博士入学者に対しては、これまでの学習履歴から、本学府に必要な講義に代替できる講義を習得している場合には、これを単位として認定して、さらに必要な能力の獲得に注力できるシステムを採用している。[3.4]

- 本学府においては、1～2年次の講義で育成した広範な生命科学に関連する知識を実践の場で適用できる能力を培うために、思考力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、発想力などを涵養するための「学際開拓創成セミナーI」（2年次）及び「学際開拓創成セミナーII」（3～4年次）を実施しており、5年一貫制教育に特徴を活かした継続性のある人材育成としている。

なお、基幹教育院においては、高度汎用的な知識・技術・態度（「ハイエンド・リテラシー」）を涵養する大学院基幹教育科目を開いている。

（別添資料 7317-i3-11）[3.5]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 7317-i4-1～2）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
（別添資料 7317-i4-3～4）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 7317-i4-5）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
（別添資料 なし）
理由：該当なしのため
- ・ 指標番号5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学府では、生命科学を扱ううえで、研究者及び高度職業人が備えておかねばならない研究倫理を身につけさせるため、すべての学生に「生命倫理」を必修科目として科している。また、学位研究とは別に、異分野の研究を行っている本学府の学生、教員が集まって、研究発表を行い、相互に議論と評価を行う実習形式の科目である「オールラボポスターコンテスト」を実施している。研究分野によっては、フィールドワークも実施している。[4.1]
- 実践的学習プログラムとしては、大学間交流協定校であるタイのマヒドン大学との学生交換プログラムを利用して、学生を先方に派遣して、研究活動を行わせ

九州大学システム生命科学府 教育活動の状況

て発表を行い単位を認定して、研究能力、英語での実践的コミュニケーションの力を涵養している。2016年度には、本学の「教育の質向上支援プログラム（NEEP：Enhanced Education Program）」（2015～2016年度）を用いて、大学院における実践的英語教育、国際共同サマースクールを実施した。（別添資料 7317-i4-6）

また、企業へのインターンシップ（正課外）も実施している。[4.2]

- 本学府では、伊都キャンパス、馬出キャンパスのデュアルキャンパス制（天草臨海実験所もつないでいる）を充実させるために、遠隔地講義システムを採用した講義を通常の講義として実施している。また、本システムは、様々な教材（Web、PC、書画カメラ、ビデオ）に対応するシステムとなっている。さらに、各地区の学生研究室に無線 LAN を設置して、インターネットによる e-learning を行う環境を整備している。[4.3]

- 本学府では、生命科学を統合的にとらえ、学際領域であるシステム生命科学分野で活躍できる人材育成のため、必要とされる生物学、医学、農学、情報科学、工学といった広範な分野の教員が7研究院、2研究所、1センターから参画して、全体で一専攻とすることで必要な各分野に加え、それらが融合した学際分野における能力を育成することを可能にしている。また、学位論文の研究指導では、主となる指導教員のほかに、副指導教員と一緒に指導に当たる複数指導教員制を採用して、複眼的なものの見方や、学際的能力の育成を可能にしている。

このほかに「学際開拓創成セミナー」（必修）、「オールラボポスターコンテスト」を実施して、多くの教員から質疑、アドバイスを受けることで、様々な分野のモノの見方や考え方を習得し、それに合わせて的確に議論とプレゼンテーションができる能力を育成している。[4.4]

- 本学府では、幅広い分野の学生が入学するので、入学時に適切なガイダンスを行い、円滑に必要な履修プログラムを設計できるよう指導している。3年次編入学者に対しても、同様に入学前の履修状況に応じた就学指導を実施している。研究指導に関しては、異なる分野を含む複数指導教員制を採用し、学際的研究分野への取り組みを可能にしている。[4.5]

- 2017年度に講義科目を全面的に見直し、アンケートその他のフィードバックにより、各教員が要望に応じて資料の英語化、専門性の高い内容に関する専門外の学生への解説など、講義内容、教育方法の改善と学業成果の測定を継続した結果、成績分布において、最高評価であるA評価（2019年度前期）が履修者延べ702名のうち、550名と、78%以上の学生が各講義でA評価を取得できるようになった。

また、本学府では、学際分野で活躍する広い視野と分野横断型の素養を有する人材育成を目指した学習指導を行っており、「学際開拓創生セミナーII」、「オ

九州大学システム生命科学府 教育活動の状況

ールラボポスターコンテスト」では、異分野の学生が学位研究をプレゼンした後、教員が評価を行いその結果を本人にフィードバックしている。後者においては、表彰も行っている。さらに、「学際開拓創成セミナーI」では、自分とは異なる分野の最新研究を勉強して総説をまとめさせて、試問を行い、論文調査能力、論文読解力、総説としての独創性、内容などの観点からの評価結果を可視化して、受講者にフィードバックする取り組みも実施されている。

(別添資料 7317-i4-7) [4.7]

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料 (別添資料 7317-i5-1)
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料 (別添資料 7317-i5-2)
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料 (別添資料 7317-i5-3)
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料 (別添資料 7317-i5-4)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 履修上、支援が必要な障害を有する学生に関しては、対応手順を明記した「修学支援の流れについて」をホームページに掲載して、その対応を充実させている。
(別添資料 7317-i5-5)

また、教育カリキュラムを含めた支援充実を図るため、学府内に教務委員会を設置して、必要な問題について討議して解決を図っている。それ以外に、個別の学生の修学上の相談には、学府長が対応している。[5.1]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準 (別添資料 7317-i6-1)
- ・ 成績評価の分布表 (別添資料 7317-i6-2)
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (別添資料 7317-i6-3)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学府長、副学府長及び講座主任で教育体制の検討を行う組織を構成して、学生や教員からの意見聴取の取り組み（授業評価、それ以外の意見聴取、評価結果のフィードバック）を行い、学生の評価基準の適正化を図っている。[6.1]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 7317-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 7317-i7-3～6）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 7317-i7-7、（再掲）別添資料 7317-i3-5、（再掲）別添資料 7317-i7-5～6）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（（再掲）別添資料 7317-i7-3～6）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（（再掲）別添資料 7317-i3-5、（再掲）別添資料 7317-i7-6～7）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学府では、情報科学と生命科学、あるいは工学と生命科学という2つの領域に精通した素養を有する先端的研究者・教育者、並びに2つの領域にまたがる高度な学識と能力を備え、社会の広範な分野で活躍できる高度職業人を養成する。この理念に基づいて、適正な能力を有するかどうかの観点から、学位論文の審査は厳格かつ公正に行っている。すなわち、主査1名および異なる研究領域の副査2～3名からなる審査委員の合議で評価を行い、「研究主題の意義、新規性」、「先行関連研究の理解と提示」、「研究方法の妥当性」、「論証方法や結論の妥当性と異議」及び「論文の形式、体裁」の5評価項目のすべてについて、博士学位論文として水準に達しているかを審議する。さらには、教授会における予備調査を経て、主査、副査の決定、主査、副査からなる委員会による試問、広く公開形式で討議を行う公聴会、大講座の全構成員で行う審査委員会、教授会による最終審査のプロセスにより厳格に学位論文を評価している。[7.2]

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7317-i8-1）
- ・ 学生受入方針_2020年4月（別添資料 7317-i8-2）
添付理由：2019年度に学位授与方針、教育課程方針、及び学生受入方針の見直しを行ったため
- ・ 入学定員充足率（別添資料 7317-i8-3）
- ・ 指標番号1～3（データ分析集）
- ・ 指標番号6～7（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7317-i8-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学府においては、システム生命科学という広範な領域を融合した新しい生命科学領域で活躍できる人材を育成するため、学部において幅広い学問領域を習得した学生の入学を促進するため、毎年4月の始めの土曜日に学府と入学試験に関する説明会を開催している。そのために、事前にポスターとパンフレットを作成し、多くの大学に郵送、あるいは、電子媒体、ホームページにより周知している。その結果、例年、多くの他大学の複数学部からの応募があり、入学促進に寄与している。また、研究室のホームページの英語化も進め、英語による講義を行う国際コースも充実させ、海外からの入学促進策も実施している。さらに、通常の入試に加え、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、高専専攻科修了生特別入試、学部3年次学生特別入試、3年次編入学（一般、社会人、留学生）、およびそれらの秋入学、国際コース、国際コース3年次編入学、国家建設高レベル公派入試など多様な入学試験を実施している。[8.1]

<選択記載項目 A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（（再掲）別添資料 7317-i4-5）
- ・ 指標番号3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学府では、様々な国の制度を活用しながらキャンパスの国際化、グローバル人材の育成を行っている。例えば、科学技術振興機構（JST）の「日本・アジア青

九州大学システム生命科学府 教育活動の状況

少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）」では、2016、2018年度にミャンマーのヤンゴン工科大学から教員、大学院生、学部生を招へいし、九州大学で開催された国際会議でのポスター発表や本学府学生との共同研究を実施した。

また、日本学生支援機構（JASSO）の海外留学支援制度により、2015年度から本学府とタイのマヒドン大学の間で双方向に学生を派遣しており、本学府の学生には、実践的なPBL（Project Based Learning）の研修を行わせることで、もの創りのできる研究開発者の育成、英語でコミュニケーション可能な人材の育成、アジアの状況が把握できる人材の育成及びアジアの国とのネットワークの形成を行うなどの取り組みを実施している。さらに、同制度により、ミャンマー・ヤンゴン工科大学、ベトナム・ホーチミン市工科大学、タイ・マヒドン大学からも留学生を受入れ、その後、システム生命科学府に進学する学生も出ている。[A.1]

- スーパーグローバル大学創成支援事業（SHARE-Q）により、留学生獲得のため海外プロモーションとして学府の教員が、ミャンマー・ヤンゴン工科大学、ベトナム・ホーチミン市工科大学、タイ・ウボンラタチャニ大学、タイ・チェンマイ大学、国立台湾大学生体電子医学研究所、台湾大学病院、中国・マカオ大学を訪問し、各大学の教員と大学院生・学部生向けに大学院紹介のプロモーション活動を行っている。ベトナムのダラット大学、ビズヌップ・ヌイバ国立公園をはじめ、複数の海外大学、機関と部局間国際交流協定を締結している。[A.1]

<選択記載項目B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 福岡県内の高校の生物教師を対象として、最新のシステム生命科学に関する講演・セッションを行うバイオインフォマティクス夏の学校を実施して、地域の科学教育に貢献している。（別添資料 7317-iB-1）

また、文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム（持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム）」（2013～2019年度）（再掲[3.2]）では、プログラムの実施母体である「持続可能な社会のための決断科学センター」と関係自治体等との間で協力協定が締結され、地域の課題解決のための実践、教育、研究を総合的に実施することが可能となり、本プログラムの教育の現場としても活用された。（別添資料 7317-iB-2）[B.1]

＜選択記載項目C 教育の質の保証・向上＞

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学府では、異なる多くの部局から広範な分野の教員が参画しており、部局間の機能的連携、有効な教育マネジメントを図るため、各大講座から講座主任を選出し、学府長、副学府長（学務担当1名、庶務担当1名）及び講座主任（5大講座から各1名ずつ）からなる講座主任会を設置し、教育体制そのものの検討を行う体性を構築している。また、これとは別に教授会も開催し、主任会で検討した教育マネジメントの周知、および必要な場合再検討を行えるようにして、教育マネジメントの改善、見直しを可能にしている。その結果として、2017年度に教育カリキュラムにおける授業項目を大幅に再編し、また、2019年度には国際コースの授業項目の充実を実現した。加えて、学府担当教員の所属部局長から構成されるシステム生命科学府企画調整協議会において、教育に関する有機的連携（教員移動、退職教員の補充など）を図っている。

さらに、各講義の終了時には、授業アンケートを実施しており、学生からの要望を各教員にフィードバックし、教育方法や支援の充実を図っている。[C.1]

＜選択記載項目D 学際的教育の推進＞

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- システム生命科学府は、生物科学と情報科学、生物科学と工学の融合した領域で活躍できる研究者および高度職業人の育成を目指しており、学際教育が中心課題である。これに対しては、まず、初年度教育において、「たすき掛け教育」（（再掲）[3.3]）を実施して、学際教育の充実を図っている。また、「オールラボポスターコンテスト」や「学際開拓創成セミナーI・II」においては、異なる分野の学生のみならず、教員も参加して、相互に議論、研究の評価を行うことで、学生の学際性を涵養するとともに教員の学際性の理解にも役立たせている。さらに、各学生に対しては、本来の主たる分野の指導教員の他に、異なる分野の教員が指導する、複数指導教員制（（再掲）[4.4]）を取っている。[D.1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7317-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7317-ii1-2）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
（別添資料 7317-ii1-3）※法人独自資料添付
- ・ 指標番号 14～15、17～20（データ分析集）
- ・ 指標番号 16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7317-ii1-5）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- プレゼンテーションを含む研究指導の成果として、2017年度では、348回と多くの学生が学会で発表を行い、うち、81回は、国外かつ外国語での発表である。さらに、環太平洋国際化学会議や、Biomaterials International 2017を始め多くの国際会議で受賞するなど活躍をしている。2017年度には、学生がベンチャー設立を見据えて学生団体として活動するなど、社会実装への成果も上がっている。（別添資料 7317-ii1-4）

また、2019年度までの4年間で、日本学術振興会特別研究員（DC1、DC2）に26名採択されるなど、学位研究の面でも成果が上がっている。加えて、協定などに基づく海外との連携を強化した結果として、期間中の627名の学生のうち、80名、13%弱が海外留学を経験し、日本学術振興会の若手研究者海外挑戦プログラムにも毎年採択されている。[1.1]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～22（データ分析集）
- ・ 指標番号 23～24（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7317-ii2-1～2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学府では、博士の学位を取得し企業へ就職する場合、その職種のほとんどが研究職、技術職である。また、就職先の業種も公的機関、情報通信業、食品産業、機械器具製造業等、多種に及んでおり、生物科学と情報科学、工学などの諸科学

九州大学システム生命科学府 教育成果の状況

の融合的教育研究領域としての「システム生命科学」という新しい領域を担う優れた研究者と高度専門職業人の養成という本学府の目的が達成されている。

[2.1]

<選択記載項目C 就職先等からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 就職先や進学先等の関係者への意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 7317-iiC-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 就職先に対して実施したアンケートによれば、80%以上が研究開発職に従事しており、生命科学関連の研究者を育成するとした本学府の目的は達成できている。また、専門知識に関しては全員が優れていると評価し、さらに本学府の目指す幅広い教養・知識に関しても90%以上が優れていると回答しており、教育に関し一定の成果が確保できているとみなすことができる。それ以外の項目でも、概ね70~80%以上が優れていると回答している。[C.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※ 部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。